



写真:上山敦司

遠回り

第29号 目次

01

ピックアップ

P1.....学校建設事業がついに完了!

02

スーダンだより

P2.....地域保健人材育成事業を開始

P3.....教育環境支援事業 / 洪水被災者支援

03

ザンビアだより

P4,5...井戸掘削 / スタッフハウス建設 続編

P6.....移動型レントゲンを使った結核診断

P7.....国際保健のレジェンドがザンビア訪問

P8.....医学生訪問 / 水族館をオンライン体験

P9.....高山理事寄稿

04

読み物

P10...雲外蒼天：スーダンの物価情勢

P11...日々ツラツラ日記：マザーシエルター宿泊

05

イベント、国内活動

P12,13...イベント案内 / イベントレポート

P14...川原が九州大学の客員教授に就任

P15...寄付付き商品はちみつ / 遺贈寄付

06

事務局からのお知らせ

P16...寄付者アンケートご協力お願い

P17...事務局だより

令和五年四月十日
認定NPO法人
ロシナンテス 発行

01 ピックアップ

北コルドファン州 学校建設事業がついに完了!



政変、新型コロナ、通貨暴落など、長く険しい道のりを乗り越え、2019年より実施していた学校事業が無事完了しました!

学校完成後、学校の維持管理を担う学校管理委員会を設置しました。地域住民から選出された委員に向けて、建築家や保健省職員による学校管理と公衆衛生の研修を行いました。ただ支援を待つのではなく、自らできることを考え、寄り合い、創意工夫する住民の皆さんの様子に、心強い気持ちになりました。



快適な環境で授業ができるように



意欲的に議論する委員会メンバー



オンムサマーマ区の学校を統括している先生より

以前の校舎は危険だったため、せっかく通学し始めた子どもたちが離れてくこともありました。日本のみなさんのご支援のおかげで、安心して学べる環境になり、また子どもたちが学校に戻ってきました。本当に心から感謝しています。

02 スーダンだより



▶▶ ハルツーム州東部の新たな地域でも 地域保健人材の育成事業を開始！

ロシナンテスがこれまで巡回診療や診療所建設を行ってきたハルツーム州シャルガニール地域の新たな村で、地域保健人材の育成事業を開始しました。これは、情報が届きづらい地域に住む人々に、感染症や保健衛生に関する知識を身につけてもらい、その地域の保健医療環境を向上させることを目指すものです。



難民・国内避難民居住区の様子



アルウィファグ村の現在の給水施設

【この地域の課題】

- 広大な土地に村落や難民・国内避難民居住区などが点在し、通える距離に医療施設がないことも多い
- 医療制度や施設についての情報が少ない
- 薬代や交通費の捻出が難しい家庭が多い
- 文化の違いから受診をためらう（特に異なる文化背景を持つ難民・国内避難民）

【おもな活動内容】

- 対象地域の村と避難民キャンプからヘルスボランティアを選出し、感染症対策研修を実施。その後、知識を身につけたヘルスボランティアが各地域の住民に対して啓発活動を行う。
- 対象地域の1つであるアルウィファグ村の給水施設の改修

02 スーダンだより



夜間学校と診療所に明かりを届ける！ 教育環境支援事業

パナソニックホールディングス株式会社様より、ソーラーランタン504台を寄贈していただくこととなりました。ソーラーランタンは、昼間太陽の光で発電した電気を電池に蓄えて使う小型の照明であり、使用に伴って二酸化炭素を発生することのない、環境に優しい器具です。



1月に行った
村での事前調査の様子

現地調査の結果、北コルドファン州にある電気のない4つの村で、7つの夜間学校と3つの診療所に整備するほか、村落において特に困窮している貧困世帯にも配布する予定です。ソーラーランタンを活用することで、夜間学校ではよりよい環境で勉強ができ、教育の質の向上が期待されます。また、診療所や夜間の訪問診療（出産など）においても、医療を提供することができます。



洪水被災者に衣料品を支援 グンゼラブアース倶楽部様によるご寄贈

2022年11月に、ハルツーム州オンバダ地域において、洪水被災者を対象に、子ども用肌着の衣料品を配布しました。これは、グンゼ株式会社様、およびグンゼラブアース倶楽部様よりご寄贈いただいたものです。



これまで、スーダン国内の政情不安や、長期化する新型コロナウイルス感染拡大の影響により、現地での物資の配布活動を断念していましたが、この度、実現することができました。

03 ザンビアだより



乾季の水不足解消に向けて、 診療所に井戸を掘削

ロシナンテスが事業を行う中央州チサンバ郡ムワプラ地域において、診療所および近隣住民への水の安定供給を目指し、井戸の掘削を行うことになりました。

ムワプラ診療所は、毎年、乾季に水が枯渇する問題を抱えてきました。1日に必要な水量は、マザーシェルターだけで最大1500リットルです。さらに、周辺住民にも水を供給する場合、約3000リットルが必要で、現在の井戸にはそれを賄うだけの水量がありません。とりわけ心配されるのが出産時に必要な水の確保です。



給水所の水が枯れてしまうため、
遠くに水を汲みにいく少女

今回、マザーシェルターに昨年設置したソーラーパネルを動力とする井戸を掘削する予定です。農村地域は断水や停電が頻繁に発生し、長年、住民の頭痛の種でした。ソーラーパネルによりこの問題が解決されます。

同時に、地域住民が主体的に管理する意識を作っていくこともNGOの大切な役割です。ムワプラ地域を構成する村の代表者の会議の下に新たに水管理委員会が立ち上がりました。井戸の運営をこの委員会が担い、対象世帯から維持に必要な経費の徴収を行います。維持管理に必要なルールも作りました。

井戸掘削には約1ヶ月かかります。今は雨季で掘削がしづらい季節ですが、乾季となる5月頃の完成を目指しています。

03 ザンビアだより



➤ 紆余曲折... スタッフハウス建設 〈続編〉

前回の遠回りで進捗をご報告した、ムワプラ診療所職員のためのスタッフハウスが、外壁のペイントを終え完成しました。

当初は2か月で完了する予定だったのですが、紆余曲折があり、なんと8か月もの時間を要することとなりました。



これは、ロシナンテスが建てるのではなく、地域住民で組織された建設委員会が主体となって進め、住民もお金を出しあうことを前提に進めてきました。ロシナンテスは、一部の資機材購入をサポートするのみという形でした。遅延した一番の要因は、予算の見積もりの甘さでした。必要な資材調達に予算額以上を使っており、作業する職人に払う給与を抑えていたため、職人が不満を抱きストライキが発生しました。作業の中断を余儀なくされ、その解決には約5ヶ月かかりました。

この問題を解決するにあたって、ロシナンテスは見守る立場を貫きました。せっかく住民主導で進めてきたものなので、話し合いを主導することはせず、一参加者として会議に参加し解決を促しました。進捗が遅くても、彼らにできることは彼らで解決していかなければ、オーナーシップが生まれませんからです。



入居した男性スタッフのハマンバさんは大喜びです。現在、診療所は人事異動により1名が去り、3名の職員が新たに派遣され、合計5名でのローテーションが実現しています。

03 ザンビアだより



▶▶ ザンビアで結核への挑戦 移動型レントゲンで富士フィルムと連携

ロシナンテスは、移動型のレントゲン機器をテスト的に導入し、これまで見過ごされてきた結核患者を見つけ、治療を促す活動を行うことを決定しました。富士フィルム株式会社様の協力のもと、中央州の4つの医療施設において実施します。

現在、結核の検査を受けるには、患者が2~3時間かけてレントゲンがある病院へ行く必要があります。今回の機器は持ち運び可能であるため、レントゲンを患者が住む近くの医療施設に持ち込み検査を行うことができる点が特徴です。



ザンビアは、世界的に見ても結核患者が多く、感染率が高い国です。結核検査では、最初にPCR検査を受け、陽性であれば治療へ、陰性であっても、疑わしい症状が残る場合は医師の診断のもとレントゲンをとる必要があります。ところが、PCRテストを実施できる施設は限られており、レントゲンが取れる病院は更に限られるため、患者の移動に負担がかかり、これまで適切な治療につながって来ませんでした。また、遠くの病院に向かうには乗合いバスを利用せざるをえず、他の人への感染も起きていました。

現在ロシナンテスは、この仕組みの実現に向けて、中央州の保健局と交渉を重ねています。まず1年間試験的に導入し、その機器の効果、仕組み自体の効果を検証する予定です。データで効果が実証できれば2024年度以降の本格的な導入を目指します。

03 ザンビアだより



国際保健のレジェンド 喜多悦子先生がザンビアを訪問

喜多先生は、現在笹川保健財団の会長をつとめておられ、国際医療協力分野で豊富な経験をお持ちの、国際保健のレジェンドとも呼ばれる方です。

そんな喜多先生に、川原理事長と高山理事からラブコールをしたところ、2月1日から8日までのザンビア滞在が実現しました。ルサカから車で3時間の距離の、ロシナンテスが建てたマザーシエルターがあるムワプラ診療所にも、2度訪問してくださいました。



写真：上山敦司



写真：上山敦司

「ザンビアは平和だけど、紛争地で支援するのは別の難しさがあるね」

「40年前に国際協力を始めて、医療の質は随分と良くなって来たけど、次のステップに行くことができていない」

「今までの国際協力を超える、Ver2のようなものを模索していく必要がある」と、至極の言葉をいただきました。

また、喜多先生は「Ver2の模索は高山先生も交えて一緒にやってみましょう、またザンビアに来ますね」との嬉しい言葉を残され、当地を離れていかれました。

喜多先生、ザンビアにお越しいただき、本当にありがとうございました。

03 ザンビアだより



医学生がザンビアを訪問、 学びの場を提供

高山理事のザンビア駐在がきっかけとなり、医療人材交流が行われています。これまでに、東京大学、一橋大学、広島大学などから多くの医学生がザンビア事務所に学びにきています。



写真：上山敦司

【東京大学医学部6年生からの感想】

巡回外来やカンファレンス、母子検診などの見学に参加させて頂きました。ロシナンテスは、現地の人々のモチベーションを上げながら彼らの積極性を活かして、良い方向に変えて行こうとしていました。持続可能であり独自の良さも引き出せるこの考え方や、それを実行するための人を巻きこむ熱意や努力を学び、今後の人生に活かそうと思いました。



ザンビアの子どもたちが 水族館をオンライン体験

ロシナンテスは一般財団法人沖縄美ら島財団と連携し、ザンビアの子どもたちに沖縄美ら海水族館を体験してもらう「美ら海遠隔授業 in ザンビア Aquarium Live Online Lectures」を開催しました。

2023年1月には、ザンビアの首都ルサカ州の高校生200名、そして2月には、中央州の小児病院の子どもたちと沖縄美ら海水族館をオンラインでつなぎ、美ら海水族館の研究者や学芸員によるガイドツアーや質疑応答などが実施されました。



03 ザンビアだより



▶▶ 子どもの死亡を減らしていくために ザンビアのヘルスポストから

ロシナンテスでは、理事であり、地域医療と公衆衛生の専門家である高山義浩医師に昨年11月よりザンビアに駐在いただき、専門家の観点から事業への様々なアドバイスを受けています。この度、ザンビアが抱える母子保健の課題について寄稿いただきましたので、一部をご紹介します。ぜひご一読ください。

“ぐるぐる巻きにされた新生児と一緒に、村のヘルスポストへと女性が運ばれてきました。今朝、自宅で産んだばかりだそう。新生児は、すでに息絶えていました。理由は分かりません。運ばれてきた...と言っても、夫が押す自転車の荷台に座って、1時間半かけて揺られてきたのです。

ザンビアの新生児死亡率は、公式統計2.4%（日本は0.08%）となっていますが、実際はもっともっと高いのだらうと思います。妊産婦死亡率は、出生10万人当たり213.0（日本は5.0）と、500人が産まれるたびに1人のお母さんが亡くなっていることになります。

医学的に管理された出産を普及させれば良い...という単純な話ではありません。医師も看護師も不足していて、そもそも村のヘルスポストには看護師すらいません。政府が自宅分娩を禁じたことで、自宅分娩を支援する「産婆＝伝統的助産」は違法となり、彼らへの支援と教育が手薄になっている可能性もあります。

早々に解決策が見えてくるわけではありませんが...伝統的助産を切り捨てることなく、ヘルスポランティアとの連携をとること。妊婦検診を普及させて、ハイリスク分娩に早く気付ける体制とすること。その結果を踏まえた、妊婦教育を普及させること。周産期を安全に過ごすことができる場（自宅環境の改善も含む）を増やしていくこと。夫の押す自転車で揺られ、7人の子どもの待つ家へと帰っていく母親を見送りながら、そんな必要性を漠然と感じておりました。空は果てなく、道のりは遠い...”

04 雲外蒼天

世界的な物価上昇 スーダンは今

世界的な物価上昇が続いています。この世界的な物価上昇は、労働力不足から来る供給力不足や、モノの需要が高まりなど、複数の要因により2021年から生じていた需給バランスの不均衡に、ロシアによるウクライナ侵攻が拍車をかけて起こりました。ロシア・ウクライナ両国は、世界のエネルギー・食糧の供給に占める割合が高いため、両国からの輸出の減少、ロシアへの制裁によるロシア産品への価格上乘せの結果、価格が高騰しているのです。

一方、スーダンでは、それ以前からインフレの影響を受けやすい危機的な状態でした。2019年にバシル独裁政権が崩壊して以降、政治・経済両面における混乱が続き、経済成長はマイナスのままです。2021年には為替の変動制導入と通貨切り下げによりインフレが発生、さらに2021年10月の軍によるクーデターで、再び世界から孤立する厳しい状況におかれています。

スーダンは小麦などのロシア産作物への依存が高く、2022年のウクライナ侵攻を契機に通貨の大暴落が起こりました。インフレの高まりと補助金の撤廃によって、エネルギー価格の大幅な値上げが行われ、燃料価格には、2020年と比較して2023年1月時点で約150倍となっています。

現地では、燃料価格の値上がりが生活に大打撃を与えています。供給不足も起きており、ガソリンスタンドでの給油には行列に数時間並ぶ必要があります。加えて、長時間の停電と断水がおこるなど、人々は苦しい生活を強いられています。

ロシナンテスも、物価高騰への対処に日々奔走しています。私たちが大変であるということは、スーダンの人々はもっと苦境にたたされているということです。スーダンの経済の好転を願いつつ、この国の人々と寄り添って支援活動に尽力していきます。

04 日々ツラツラ日記

➤ 「マザーシェルターに 宿泊してきました！」

こんにちは、ザンビア出張中の立花です。マザーシェルターに宿泊し、妊婦さんや診療所のスタッフさんと素敵な時間を過ごしてきました。

診療所では、深夜に出産が始まることも、早朝に急患が来ることもあります。24時間フル稼働の日々を5人のスタッフで回しており、週に1~2回は、往復数時間かかる村にも歩いて診療に向かいます。



主食のシマづくりを教わりました
重労働です



診察中のグエンさん

ナースのグエンさんは、カブエという大きな街の出身ですが、村落部で働くことを希望しムワプラ診療所に配属されました。休憩時間になっても人が途切れるまで診療を続ける、とても意欲的な女性です。

夜は夕食をごちそうになり、ザンビアで人気のドラマ（7人の妻がいる男性が主人公のお話）を楽しみ、好きなインド映画や恋の話（スタッフは遠恋が多いんです...!）で盛り上がりました。心強い同志たちと共に時間を過ごし、私ももっと頑張ろうと気持ちを新たにすることができました。私たちにできるのは、彼女たちの努力ではどうにもならないことをサポートし、働きが最大限活かされるよう支えていくこと。引き続き考え、動き続けていきたいと思います。

05 イベント、国内活動

参加費無料 報告会、イベント開催!!

■2023年5月14日（日）15:00~16:30

ムワプラ診療所へようこそ！ザンビアオンラインツアー

ロシナンテスの事業地であるムワプラ診療所を訪ねるオンラインツアーを実施いたします。本ツアーでは、診療所や、ロシナンテスが建設したマザーシェルターへ皆さまをご案内します。

[>>申し込みはこちら](#)

■2023年5月20日（土）15:00~16:00 ※ご支援者様限定※

職員と語ろう！「ロシナンテお茶会」（北九州・東京同時開催）

支援者様とロシナンテス職員で、のんびりとトークする座談会です。当日は、寄付者アンケートの結果をお伝えしながら、皆さまと一緒にこれからのロシナンテスの活動を考えてみたいと思います。スーダンのお茶やザンビアコーヒーを片手に、職員とゆったり交流してみませんか？

[>>申し込みはこちら](#)

■2023年6月17日（土）14:30~16:00 ※ご支援者様限定※

2022年度活動報告会（北九州開催）

2022年度に実施した事業と2023年度に実施を予定している事業について、ご報告する活動報告会を開催します。皆さまからのご支援がどのように現地に届いているのか、理事長及び駐在員からお伝えいたします。

[>>申し込みはこちら](#)

お申込フォームの利用が難しい方は、
メールもしくはお電話でご連絡ください。

A. メール 宛先：info@rocinantes.org 件名：イベント申込
メール本文に以下の項目のご記載をお願いいたします。

①参加希望のイベント日付 ②お名前 ③メールアドレス

B. お電話 TEL：093-521-6470（平日10時~17時）

05 イベント、国内活動



【イベントレポート】1月8日（日）

皆さまのご支援でできたこと～2022年を振り返って

クーデターや新型コロナ、インフレなど、思うように活動できなかった数年を経て、2022年は様々な事業を動かすことのできた年でした。感謝の気持ちを直接お伝えしたく、理事長の川原による活動報告会を開催しました。質疑応答の一部をご紹介します。

Q.現地で特に苦勞していることを教えてください。

A.一つは、経済状況が悪いという点です。日本は昨年円安になったため、ドルが少なくなって困りました。もう一つは、治安です。スーダンは治安が本当に安定しないため、情報を得ながら、デモを行なっている場所には行かないようにする、などの判断をしています。

また、ザンビアでは、現地企業に発注した仕事がうまくいかない、といった問題もありました。



【イベントレポート】2月5日（日）

スーダン 学校事業完了報告会

これまで栄養改善事業、給水所建設事業等を行ってきた北コルドファン州で、老朽化した学校の改修、建設が完了しました（詳細は遠回り1ページ）。報告会では、現地駐在員より、新しい校舎や、生徒、地元住民たちの様子を写真と共にご報告しました。質疑応答の一部をご紹介します。

Q.新しい学校には電気はありますか。

A.地域一帯に電気が通ってないので、ありません。村の中では自分でソーラーパネルを購入している人もいますが、電線はない状態です。

Q.学校は何部制に分かれていますか。

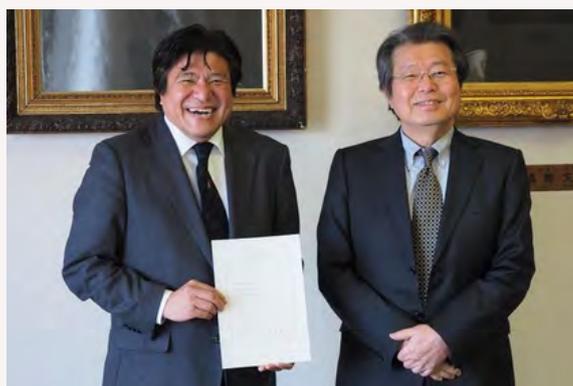
A.この地域では一部制です。進級試験の最終学年を対象とした夜間学校は行われています。

05 イベント、国内活動

▶▶ 理事長 川原尚行が、九州大学の客員教授に就任

ロシナンテスの理事長 川原尚行が、2022年12月より、九州大学客員教授に就任しました。

九州大学は「総合知で社会変革を牽引する大学」を目指しており、実現に向けて「組織的な国際協働」や「最善の医療を追求」などを掲げています。こうした背景から、アフリカのスーダン・ザンビアで保健医療の支援活動を行う川原が、客員教授を拝命することとなりました。



川原(左)と九州大学総長 石橋達朗氏(右)

今後、アフリカの大学との連携推進や、アフリカにおけるデジタルヘルス領域での協働等を検討していく予定です。

九州大学は川原の母校

川原は、1992年に九州大学医学部を卒業後、九州大学病院の第二外科（現：消化器・総合外科）に入局、1997年に九州大学大学院医学系研究科を修了しています。大学院修了後の外務省勤務時代、NGO立ち上げ前に個人で奮闘していた時期を含め、九州大学は、長年川原のアフリカでの活動を応援してくださっています。

理事長・川原尚行よりコメント

「長年の心の支えであり、多くの繋がりがうまれた場所でもある、母校の客員教授を拝命できたことを大変光栄に思います。アフリカの大学との共同研究なども進めていけるよう、積極的な連携を目指します。国際協働の強化を目指す九州大学の一助となれるよう努めて参りますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。」

05 イベント、国内活動

希少な「白いはちみつ」が、ロシナンテスへの寄付付き商品に

2022年12月16日より、Boina Malanaが販売するキルギス産の蜂蜜「エスパルセットホワイトハニー」に、ロシナンテスへの寄付付き商品が登場しました。寄付金は、ロシナンテスがアフリカのスーダン・ザンビアで行う保健医療支援の活動に使用されます。



現地の生産者の収入向上を目指し、キルギスの養蜂家と直接取引を行うBoina Malanaが、日本での販売活動を通じて世界の現状を発信したいと始めた取り組みです。おいしい蜂蜜を購入することが、アフリカの支援につながります。

[>>販売サイトはこちら](#)

遺贈寄付の専門家報酬の一部を助成する「フリーウィルズキャンペーン」の賛同パートナーに

ロシナンテスは、一般社団法人日本承継寄付協会が主催する「フリーウィルズキャンペーン」の賛同パートナーとなりました。これは、「遺贈寄付」の文化を広めるため、専門家報酬を助成するキャンペーンとして、一般社団法人日本承継寄付協会が国内で初めて実施したものです。遺贈寄付の相談を受ける専門家への報酬を対象に行い、寄付を検討する方への負担軽減を目的にしています。

遺贈寄付パンフレットをご用意しています

遺贈にご関心のある方へ、専用のパンフレットをご用意しています。資料をご希望の方は、事務局までお気軽にお問合せください。お問い合わせ内容に「遺贈パンフ希望」と記載ください。

<https://www.rocinantes.org/request/>

06 事務局からのお知らせ



寄付者アンケートへのご協力お願い

この度、本会報「遠回り」に同封するかたちで、寄付者アンケートを実施することとなりました。今後の団体運営、支援活動の参考にさせていただきたく、ぜひ忌憚のないご意見をお寄せいただけましたら幸いです。

- 目的：寄付の動機や満足度、団体の活動へのご意見、ご要望のヒアリング
- 期間：2023年4月10日~5月9日
- 実施形式：アンケート用紙およびウェブアンケート
- 回答方法：①②いずれかの方法でご協力をお願いいたします。

①新聞版遠回りに同封のアンケートにご記入の上、FAXにてお送りください。

FAX: 093-521-6471

また、事務局への郵送でのご返信も受け付けております。

②4月10日配信の支援者限定メールにウェブアンケートを載せております。メール記載のアンケートURLよりご回答ください。



募金箱を設置していただけたところを募集中です

ご検討いただける方は、お電話もしくは、お問合せフォームよりご連絡ください。

<https://www.rocinantes.org/contact/>



会報「遠回り」を、郵送からスマホ版のメール受領に変更されたい方へ

今後、会報「遠回り」の郵送を停止し、このスマホ版のEメールでの受領に変更されたい場合は、当団体ウェブサイトよりお申込みいただけます(お電話、Eメールでも受け付けています)。

<https://www.rocinantes.org/mail/withdrawal/>

06 事務局からのお知らせ

▶▶ ご住所の変更はございませんか？

ご住所が変わった場合は下記のいずれかの方法でお知らせください。

1 ウェブサイト

<https://www.rocinantes.org/support/change/>

2 メール info@rocinantes.org

3 お電話 093-521-6470 (平日10:00~17:00)

その他、お電話番号やメールアドレス等の各種変更についても、それぞれ変更前・後の情報を上記いずれかの方法にてお知らせください。

お手続きについてご不明な点等、お気軽にお問い合わせ下さい。

事務局だより

こんにちは。昨年4月に入職し、もうすぐ1年が経ちます。支援者の皆さまのあたたかいお気持ちと、スタッフの熱い情熱を感じることができ、改めて一員となれたことをとても幸せに感じています。

さて、私は旅行が趣味で全国の色々なところ行き、その景色や食べ物を楽しむのですが、最近は旅先ですれ違ったあの人も、話しかけてくれたこの人もチーム・ロシナンテスの仲間かも？！と勝手に想像し、旅を楽しんでいます。

同じ方向を向き、一緒に歩む仲間が隣にいるかもしれないと思うだけで、心強く挑戦したくなります。ロシナンテスの活動も色々な障害や困難もありますが、仲間がいるから挑戦し、乗り越えられています。住んでいる場所や環境は違いますが、チーム・ロシナンテス全員で活動していることを誇りに、これからも心をついにし、皆でがんばりましょう！